

## 朝日連峰 泥又川東俣横山沢～枳形川源流下降 ～猿田川シッパ沢下降

石井

【日時】2006年8月12日～15日

【メンバー】石井（L）、浅井、田村

雪の残り方が尋常ではない今年、それでも朝日へ、そして毎年恒例仁さんの実家（＝ハッピーハウス）へとなれば、本流の大河は外し、周辺部の沢なら何とかなるだろうと踏んだ。何となく募集していたら7人にもなり、うれしい悲鳴ではあるが、さすがに多すぎるので二手に分けることにした。一方は時計回り、もう片方が反時計回りに遡下降しながら東大鳥川西ノ俣沢の三俣を目指し、うまくいけば合コン、そして共に枳形山のピークを踏み、再び分かれて相互の車を利用して集合！かつてハマった自然湖や天国のような西ノ俣の源流を訪ね、彷徨するという壮大な計画だ。結果的には不首尾に終わった上、厄介な結末に…。

### 12日 曇のち雨のち曇のち晴

関越・北陸・日本海東北道・7号線をひた走り、朝日村の道の駅に着く頃にはすでに薄明るかった。眠いながらも6時半には起きだして準備し、まずは三面ダムを目指す。最後に携帯圏内で雨雲チェックしたところ、日本海から強い雨を降らせそうな雨雲が迫っているのではないかと、予想雨量・時間からしても、ちょっと入渓を躊躇う予想である。とりあえず猿田川野営場まで入って様子見することに。管理人の居ない建物の脇に車を止めてしばらくで、不気味な風を合図に雨が降ってきた。本降りの雨脚の中、止む無く車の中で様子見、うたた寝して過ごす。気がつけば時間は昼前、雨は小降りとなり、猿田川を見に行くと、濁りも無く、結果的に増水するまでには至らなかったようであった。これはしまったと、短縮ルートを急遽検討し、岩田パーティーを鳴海金山先まで送り、我々は戸立沢右岸尾根の踏跡を辿り、泥又川二俣まで向かうことにする。

スーパー林道に車を止め、準備して猿田川に降りるとさっそくメジロがお出迎え。小さな流れの戸立沢に入り、小滝をいくつか越えた先から左手の斜面に取り付く。しばらく登るとはっきりした踏跡に出た。どうやら正規の踏跡は反対側から来ているようだ。

尾根を歩き、762の南を巻いて左手の尾根に入る。前方には広大な無居住地帯が望まれ、これからの山旅への期待が高まる。小尾根の急降下を灌木にすがってやり過ごし、二俣のテン場に6時前、ようやく着いた。ここでもメジロの歓迎だが、田村さんが調子悪そうで心配だ。何よりも好きなはずの酒を控えるなんて…。

## 13日 曇

心配だった田村さんの体調もどうにか快復し、長い行程に備えて早出する。東俣に入るとしばらくは単調なゴーロと浅いゴルジュ。谷は狭いが、遡行に支障となるような淵や滝も無く、順調に進む。が、早くもブロックが現れ、今年の雪の多さが尋常ではないことを実感する。タカハ沢を過ぎると岩盤の発達した小滝と淵が連続するようになり、なかなか美しく、楽しく遡行。と思いきや、大きなブリッジをくぐったり、空身で登ったりのゴルジュが連続し、泳ぎも混じる。楽しめる程度ながらこの辺りが下部の核心か。

585の標高点付近で谷は左折して大きく開け、これから先の溪相が見てとれる。右岸の壁は急で、それ故谷には大きなブリッジがいくつか架かっている。その先の行く手は急に立ち上がり、これまでとはガラリと様子が変わり、困難であることを予想させる。荒れたゴーロが終わると100mのブリッジくぐりに始まり、西俣への支沢出合ではゴルジュのどん詰まりに両門状の滝、頭上は30m以上の高さのブリッジという険悪な様相。支沢の滝は登れず、ここは横山沢の30m滝を登るしかない。右手から石井リードで空身でロープを引き、落口下の大岩でビレイ、荷揚げする。その上のCS滝も苦勞した。左壁にハーケンをねじ込んで手がかりとスタンスに、さらに全身シャワーのショルダーで浅井さんに土台になってもらい、ハングした落口をどうにか乗っ越す。後続は右側よりワンポイントの人工とゴボウで登るが、それでも十分苦勞する。さらに荷揚げの必要な滝と高巻きをやり過ぎると、すぐに今度は両門状の大滝が現れた。

概ね3段に分かれた、トータル80m滝近い大滝が本流と支流に架かり、壮大な眺め。ルートは右手草付から支流の一段目と二段目の間に出て、本流左岸のリッジを一部垂直木登りでやり過ぎす。このテは苦手な田村さんが苦勞していた。続く滝を越え、もうひとつ高巻きで右から越すと、ようやく河原が出てきた。地形からして、この先では唯一のテン場と思われたので、4時を過ぎていたこともあり、泊まることにする。薪もあり、メジロも減って、狭いながらもまずは快適な夜であった。

## 14日 曇時々晴

水量も減り、あとは詰めるだけかと思いきや、テン場から見えたスラブ滝の巻きに始まり、どこで区切ったらいいのかわからない連瀑（といっても水はちよろちよろだが）に手こずり、なかなか行程が捗らない。水が消え、適当に窪を選びながら進んで藪に入り、9時半にようやく1278mピークに着いた。直線では約1kmしかない距離に、ほぼ丸一日を費やしたことになる。右手には西ノ俣沢の穏やかな源流域が見渡せるが、今回は時間切れで諦めざるを得ない。無線を開けると、一日遅れで泥又に入った中村君の声が入った。昨夜は二俣に泊まり、西俣の支流を詰めているらしい。東俣遡行、西俣下降を勧めていたが、そうしなくて本当に良かった。岩田パーティーとは連絡取れず。

枳形山に向けて羽越国境稜線の藪を漕ぐ。かつてGWに縦走したときには1時間の距離だったが、さすがに進みが悪い。それでも通る者がいるのか、所々鉈を振るった跡があり、ごく薄い踏跡も現れ、全くの密藪ではないので、歩きやすい方である。昨日の行程の疲れと、岩田パーティーと無線連絡を取りたいという理由もあり、途中のピークや

らで長々と休み、スローペースで進んだため、枳形山に着いたのは13時を過ぎていた。草原の広がるピークでのんびりくつろぎ、稜線を少し下って枳形川の支流へと下降することにする。15時の交信でも連絡取れず、岩田パーティーの足取りは全くつかめず。

支流は適度な斜度でガレとゴーロが続くのみで、ほどなく本流へと出た。しばらくはそうでもなかったが、後半は2回の懸垂を余儀なくされる。しかも回収を考慮せずに50mいっぱい下り、引っ掛かって回収できずに浅井さんに登り返してもらうことになり、失敗だった。あまり適地とはいえないが、奥二俣の狭い川原を整地して泊まった。

## 15日 晴

いよいよ最終日、今日は遅い下山ではまずいので早めの出発。奥二俣を右に入ると水も少なく、滝も小滝をまばらに架けるのみで楽に遡行、右手へひと登りで再び羽越国境稜線へ。テン場から小一時間でコルに着き、まずは順調だ。シッパ沢源頭も概ね下りやすく、懸垂6回、という記録が信じられない。が、そうこう下っているうちに滝場が多くなり、最初は樹林を巻き下れるものが多かったが、だんだんと灌木帯が後退し、懸垂も必要となってくる。ブロックも所々残り、大滝こそ無いものの、やはりここは朝日、支流といえど侮れない雰囲気だ。下部は落差のある滝こそ無くなるが、手の届くようなゴルジュなどもあり、楽しく下っていく。左から、右からの大きな支流を合わせ、途中釣師にも出会って、本流が近くなったことを知る。狭い谷筋が開けると、ようやく猿田川の本流に出て、今回の山旅もいよいよフィナーレだ。

たおやかな、原始然とした流れに、ようやく釣糸を垂らす時間もでき、あとはアブ柱になりながら、車を置いた白目沢の出合まで本流を下るのみだ。2時半にデポした仁さんの車に着き、アブを払いながら車に乗り込み、山旅が終わった。

が、その後一日が終わるまでが長かった。詳細は別項に譲るが、仁さんの実家に着く頃には日付が変わってしまった。

翌日は恒例の山道具のガレージセール物干しに始まり、お決まりの鼠ヶ関観光、帰りには海の幸のお土産を買い込み、今年も「正しい日本の夏休み」を過ごした気分でした。

### 【コースタイム】

12日 戸立沢出合付近 (14:10) - 泥又川二俣C 1 (17:55)

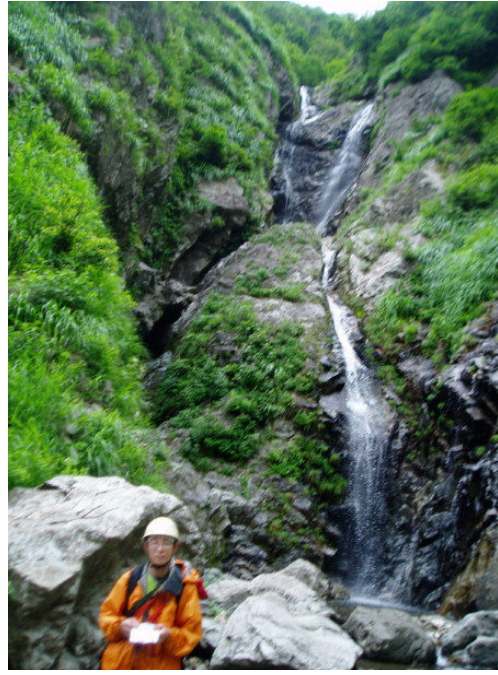
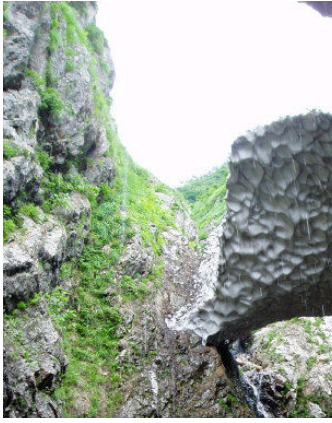
13日 C 1 (5:40) - 585m標高点手前 (9:15-35) - C S 滝上 (12:45-13:00) - 930m付近C 2 (16:20)

14日 C 2 (6:20) - 1278m峰 (9:30-10:00) - 枳形山 (13:15-14:10) - 枳形川奥二俣上部C 3 (18:00)

15日 C 3 (6:00) - 稜線 (7:00-15) - 本流 (13:00-13:40) - 白目沢車デポ (14:30)

【地形図】 円吾山、相模山、大鳥池、鳴海山

【グレード】 トータル4級



<泥俣川東俣フォト>

左上：横山沢出合の溪相

右上：横山沢の大滝

左：栴形山目指しての藪

右：シツパ沢のゴルジュ

左下：仁さんの実家前で



